

秋の部優秀賞十首

こはる び じゅうろくらかん こうえん  
小春日の十六羅漢公園の

こも びう  
木洩れ日受けて

らかん  
羅漢ほほえむ

盛岡市 小笠原 敏夫

み たび  
見る度に

なんぶ こだいかたぞ  
南部古代型染めの

あい ふか こころしず  
藍の深さに心鎮まる

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

もみじ  
紅葉なる

じょうし た なが  
城趾に立ちて眺むれば

はつかんせつ なんぶ ふじみ  
初冠雪の南部富士見ゆ

松戸市 菊池 允二

名のごとく

石割桜岩を割く

震災超えて克かてとごとくに

倉敷市 佐藤 豊行

不こ来ず方かのお城しろの

紅葉もみぢみ見る人ひとの

「お燃もえてる」と感嘆かんとんの声こえ

盛岡市 鈴木 充

暑あつきころ

あくがれていし啄木あきの

住やまいを訪やね八十路そじになりて

東京都中野区 武田 京子

「流しづ民たみ」とふ

地ちに焦こがれつつ下おり立たてば

啄木たくぼく生地せいちしめやかに雨あめ

熊本県合資市 野上 久枝

ねむ  
眠られぬ

よる  
夜はひとりたくぼくで啄木の

かしゆう  
歌集ひろげて声出して読よむ

愛知県犬山市 服部 文代

あのなはん

ことば  
言葉の訛なまり優しくて

さむ  
寒さも忘れ話はなし返こむ街まち

盛岡市 堀米 公子

啄木やの新婚の家にくつろぎて

じもと  
地元の姫おうなと

した  
親しく語かたらふ

北海道深川市 森田 純子

平成二十五年十二月選 秋の部

投稿数 百四十三首

選者 八重嶋 勲 氏